

平成26年産 秋冬野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- 11月は、北日本日本海側や沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われる日が多かったことから日照時間が多かったが、東日本太平洋側では前線の影響で曇りの日が多かったことから少なかった。また、平均気温は、寒気の影響が弱かったことから、上旬は北・東日本で高く、下旬は全国的にかなり高かった。降水量については、北日本や東日本の日本海側で少なかった。
- 12月は、東日本太平洋側を除いて、日照時間は全国的に少なく、北・東・西日本の日本海側、沖縄・奄美ではかなり少なかった。また、平均気温は、断続的に強い寒気が日本付近に流れ込んだため全国的に低かった。降水量については、低気圧が数日の周期で通過したため、ほぼ全国的に降水量が多く、特に、北・東日本の日本海側では、1946年の統計開始以降で最も多い記録を更新した。
- 1月は、東・北日本の日本海側と北日本の太平洋側で日照時間は少なく、その他の地域は、平年並みであった。また、平均気温は、冬型の気圧配置が長続きせず暖かい空気が流れ込む日が多かったため、北・東・西日本では高かった。降水量については、西・東日本の太平洋側では、低気圧がたびたび本州付近を通過したため多かった。一方、沖縄・奄美は、高気圧に覆われる日が多く降水量は少なかった。

2. 生産・供給

- 冬キャベツは、千葉県産で低温の影響や愛知県産で病害の発生などあったものの、概ね期間全体で見ると11月を除いて前年を上回って推移した。
- 秋冬だいこんは、1月以降神奈川県産において、低温による生育の停滞が見られたが、千葉県などその他の主産地で天候に恵まれるなど概ね順調に生育したことから前年及び平年を上回った。
- たまねぎは、主産地である北海道産において、期間を通して安定的な出荷となったことから、出荷量の少なかった前年及び平年ともに上回った。
- 冬にんじんは、天候に恵まれ生育が順調で潤沢な入荷となったことから、期間を通して前年及び平年を上回った。
- 秋冬はくさいは、主産地である茨城県産において、期間を通して概ね順調に生育したが潤沢であった前年に比べ下回った。
- 秋冬レタスは、2月に天候不良や病害の発生などの影響はあったものの、期間を通して主産地において、天候に恵まれ順調に生育したことから、前年を上回った。

3. 需要・価格

- 冬キャベツは、前年が高値で推移したこともあり、特に、11月及び12月は前年の半値程度となるなど前年を下回った。
- 秋冬だいこんは、出荷が順調であったから、下げ基調となり年明けまでは前年を下回って推移した。
- たまねぎは、主産地である北海道において安定した出荷となったことから、期間を通して高値であった前年を下回った。
- 冬にんじんは、期間を通して潤沢な入荷となったことから、前年を下回った。
- 秋冬はくさいは、10月の価格の急落後も安値基調で推移したこともあり、特に、11月及び12月は前年の半値以下となるなど前年を下回った。
- 冬レタスは、11月は潤沢な入荷量で前年を下回っていたが、年末需要などもあり、年末年始を中心に平年を上回った。

1. 平成26年産冬キャベツの需給・価格の実績

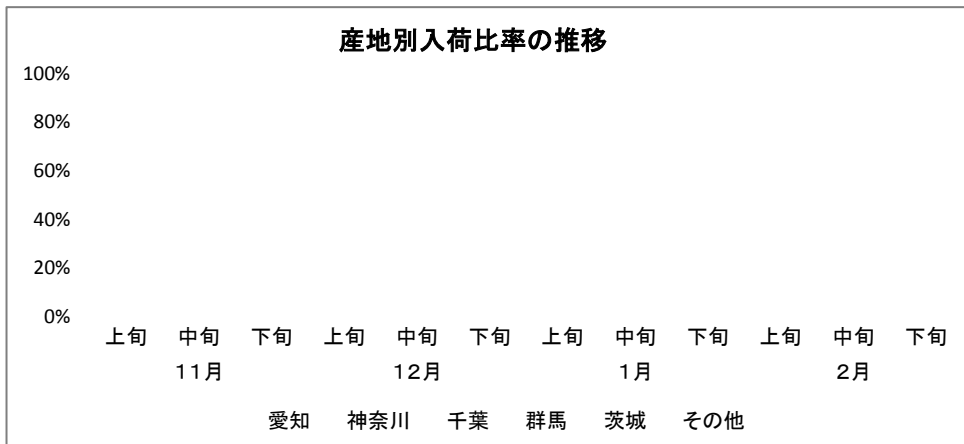
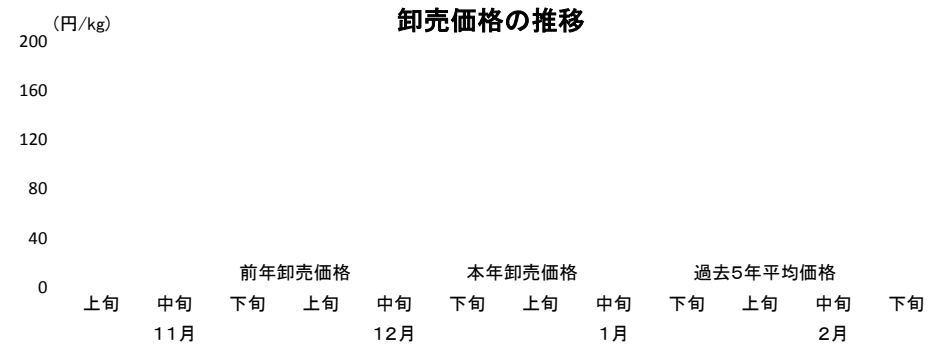
	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
<p>冬キャベツ (11～3月)</p>	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は微増。 ● 生育状況は、千葉、神奈川とも台風の影響で一部塩害が発生して植え直しをしているが、概ね順調。愛知は、年明けについては一部台風の影響があるが、全体では概ね順調。 ● 出荷量は、期間を通じて概ね安定した出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、入荷増の単価安の傾向(10月中旬以降の急激な安値は、上旬までの高値により例年出荷をしない東北産の残量が出荷されたこと及び関東産の前進出荷により、入荷量が多くなったため。)。12月下旬～2月出荷分に台風18・19号の影響が出る可能性あり。 ● 加工・業務用は、カット野菜の納品量が増加しており、特に業務用需要では、相場に左右されることなく堅調である。また、外食では、10月上旬までの高値により、輸入品比率を高めている業者もある。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、千葉県産は台風や病害の影響もなく、また、愛知県産も適度な降雨により順調だったものの、他の主産地で伸びなかったことから前年を下回った。 ● 12月は、愛知県産や千葉県産において中旬までは、天候に恵まれ生育も順調であったことから前年を上回ったが、下旬は、愛知県産において病害の発生などの影響から平年を下回ったものの、主産地の低温などで伸びず低調であったことから前年を上回った。 ● 1月は、千葉県産で前年を下回ったものの、愛知県産が天候に恵まれ上旬は前年並みで推移したものの、下旬は少なかった前年を上回ったことから前年を上回った。 ● 2月は、千葉県産で低温の影響で小玉傾向となり、前年を下回ったものの、愛知県産が天候の影響もなかったことから前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年をやや上回り、平年並みとなった。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:103%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、入荷量の減少に伴い上げ基調で推移し、前月からの低値が継続していることから、高値であったこともあり、前年を下回った。 ● 12月は、中旬以降、入荷量が減少したことから、上げ基調に転じたものの、入荷量の減少により高かった前年を下回った。 ● 1月は、入荷量も順調であったことから下げ基調に転じ、前年を下回った。 ● 2月は、入荷量が旬を追って増加したこともあり、緩やかな下げ基調となり前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年を大幅に下回り、平年をかなり下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:70%)

(参考1) 平成26年産冬キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	102	94	90	109	119	91	102	97	111	97	104	121	103
	95			106			104			106			
過去5年平均比	101	96	91	96	108	90	105	91	111	95	107	116	101
	96			98			102			105			

	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	55	53	60	45	59	62	83	87	83	83	85	81	70
	56			55			85			83			
過去5年平均比	66	71	98	74	99	95	106	99	93	78	81	74	87
	78			78			98			78			

(参考2) 平成26年産冬キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



2. 平成26年産秋冬だいこんの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
秋冬だいこん (10～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、前年並みの見込み。千葉は地区によって増減はある。 ● 生育状況は、千葉は、8月の播種時期が平年より遅れたが、その後の好天により生育は順調に推移。神奈川は、台風18・19号の影響により、塩害等の被害が一部あったが、生育は順調に推移。徳島も生育は順調に推移。 ● 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、順調な生育が見込まれ入荷量増の単価安の見込み。 ● 一部の産地では、年明けに塩害の影響が出る懸念されている。 ● 外食では、夏場と違いメニューも少なく、需要は少ない見込み。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月は、北海道産や千葉県産が順調に生育したことから前年を上回った。 ● 11月は、神奈川県産で塩害があったが、千葉県産などで台風被害もなく順調だったことから平年と前年ともに上回った。 ● 12月は、千葉県産など、天候に恵まれたことや病害の発生もなく順調に生育したことから前年と平年ともに上回った。 ● 1月は、千葉県産で順調に生育したものの、神奈川県産で低温により生育停滞が見られたことから前年を下回った。 ● 2月は、神奈川県産で低温による生育停滞で前年を下回ったものの、千葉県産で順調に生育したことから前年並みとなった。 ● 期間全体としては、前年をわずかに上回り、平年をかなり上回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:102%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月は、旬を追うごとに下げ基調で、下旬には前年の半値程度まで下がるなど、昨年を大幅に下回った。 ● 11月は、台風による生育遅延のため高かった前年と平年を大幅に下回った。 ● 12月は、前月同様安値で推移していたが、下旬は年末需要もあり上げ基調で推移したものの、高値であった前年を下回った。 ● 1月は、順調な入荷により上旬は下げ基調だったものの、中旬以降、入荷量が前年を下回ったことなどから前年を上回った。 ● 2月は、中旬には降雪の影響で高かった前年を下回ったことから、平年を下回ったものの、前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年を大幅に下回り、平年をかなり下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:79%)

(参考1) 平成26年産秋冬だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比(前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

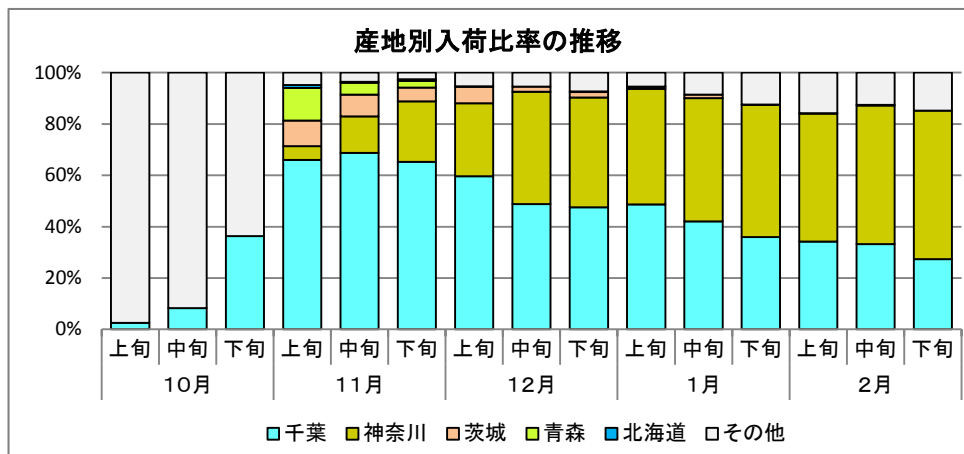
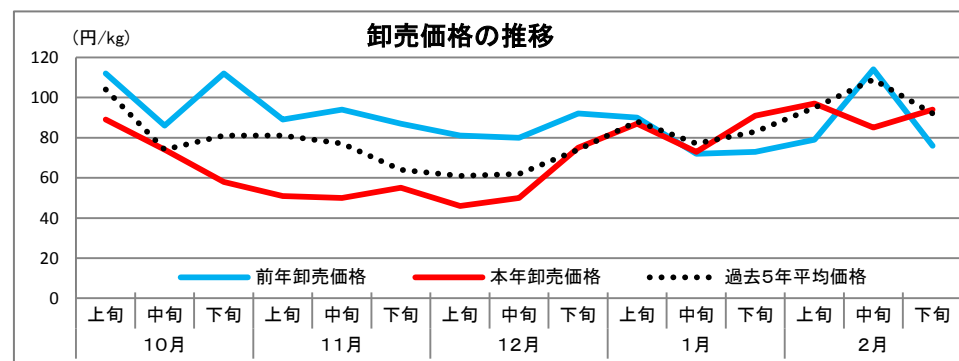
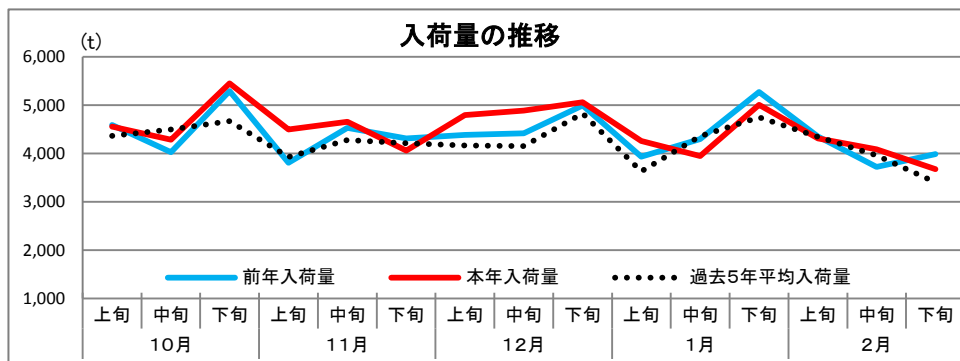
入荷量対比(%)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	99	106	103	118	103	94	109	111	101	108	92	95	99	110	92	102
	103			104			107			98			100			
過去5年平均比	104	95	117	114	109	96	115	118	105	117	91	105	99	103	108	106
	106			106			112			104			103			

卸売価格対比(%)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	79	86	52	57	53	63	57	63	82	97	101	125	123	75	124	79
	69			58			67			109			103			
過去5年平均比	86	100	72	63	65	86	75	81	101	99	95	110	102	78	102	87
	84			70			86			102			93			

(参考2) 平成26年産秋冬だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移(東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

3. 平成26年産たまねぎの需給・価格の実績

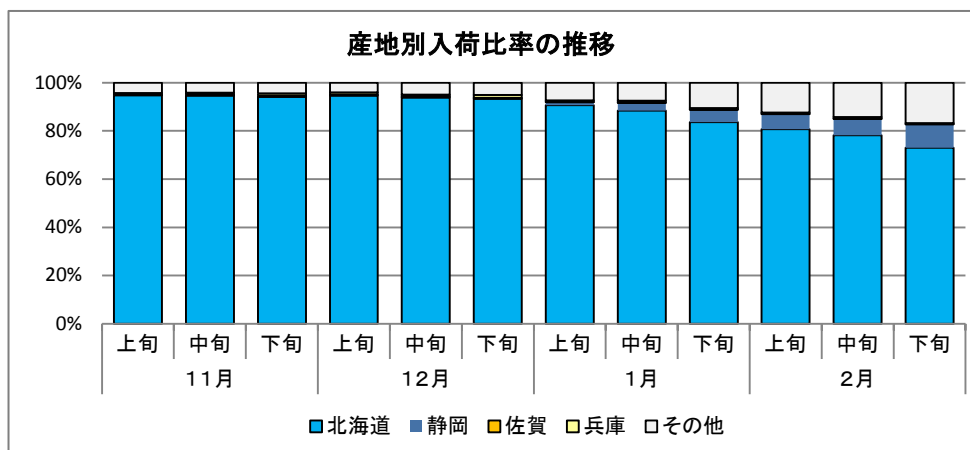
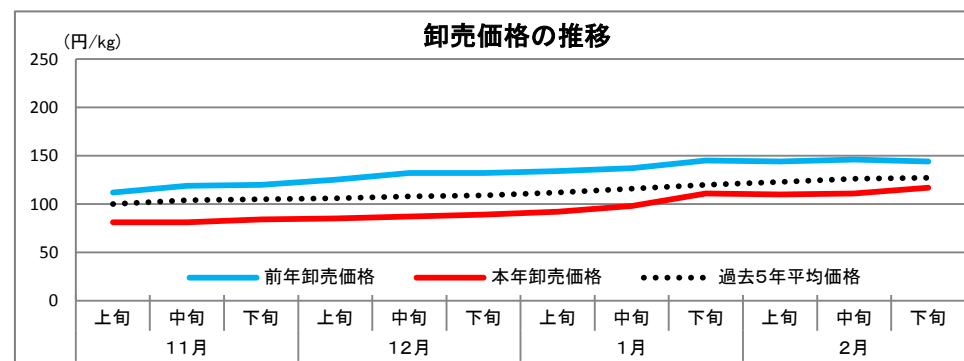
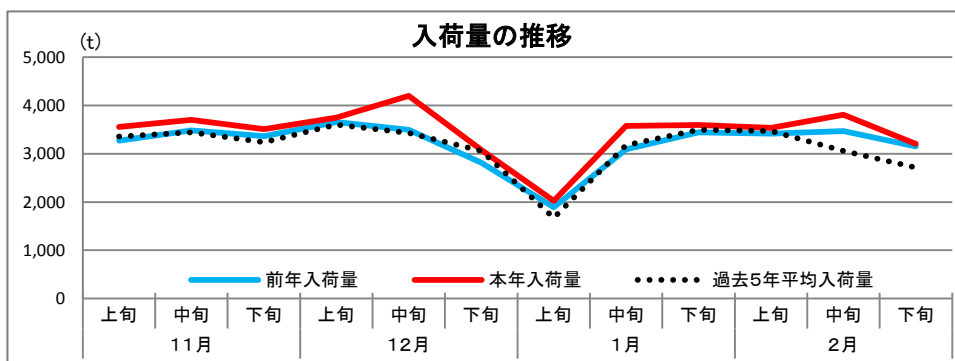
	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
たまねぎ (11～4月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、前年並みの見込み。 ● 生育状況は、北海道は、定植の開始時期が平年よりも遅れたが、その後の好天によって平年より1週間早く終了。全体的に昨年よりも大玉傾向で、中晩成に比べて早生種の方が大玉傾向。 ● 出荷量は、前年は早ばつの影響で不作であったが、本年の作柄は平年よりやや良好で、期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、入荷量増の単価安の見込み。 ● 加工・業務用は、中国産のたまねぎの残留農薬の問題によって、国内供給に一部懸念があったが、北海道産の生育が順調で豊作傾向となっていることから、現状では大きな混乱はない。また、円安により中国産との価格差が縮まったことから、一部の外食業者では国産にシフトする動きが見られる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月から12月は、北海道産において月を通して安定的な入荷となったことから、小玉傾向で少なかった前年を上回った。 ● 1月は、北海道産において年末の雪の影響による輸送の乱れはあったものの、安定した入荷となったことから前年を上回った。 ● 2月は、北海道産において、月を通して安定した入荷となったことから、小玉傾向で少なかった前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年ともかなり上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:108%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月から12月は、安定した出荷となったことから、期間を通して高値となった前年を下回った。 ● 1月は、全月からの入荷量の減少などにより、価格は旬を追うごとに上がったものの、高値であった前年を下回った。 ● 2月は、月と通じて緩やかな上げ基調となったが、高値であった前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年とも大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比72%)

(参考1) 平成26年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

入荷量対比 (%)													
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	109	106	104	103	120	109	107	116	104	104	110	102	108
	106			111			109			105			
過去5年平均比	106	108	108	104	122	101	121	113	103	102	124	118	110
	107			109			110			114			

卸売価格対比 (%)													
	11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	72	68	70	68	66	67	69	72	77	76	76	81	72
	70			67			73			77			
過去5年平均比	81	78	80	80	81	82	82	84	93	89	88	92	85
	80			81			87			90			

(参考2) 平成26年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

4. 平成26年産冬にんじんの需給・価格の実績

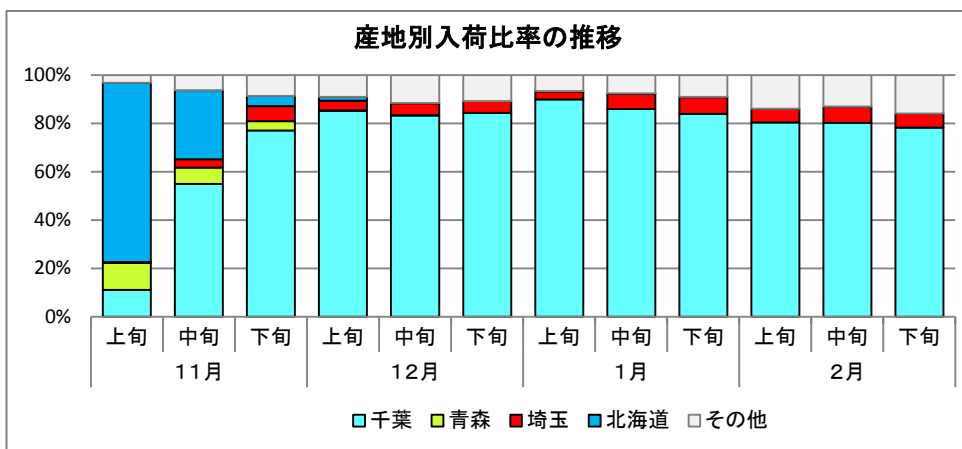
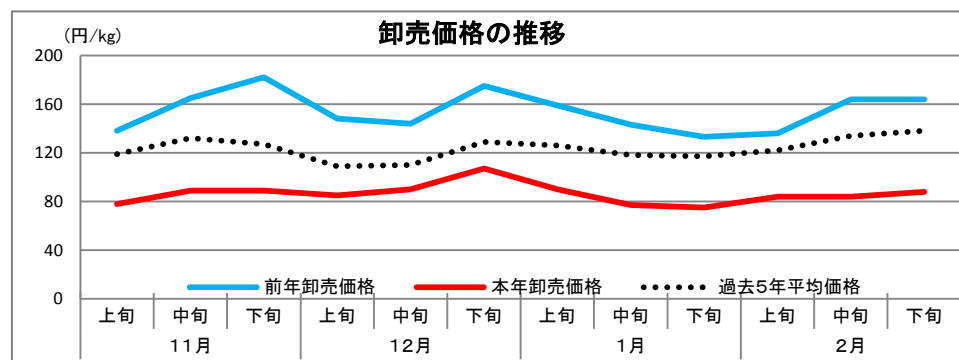
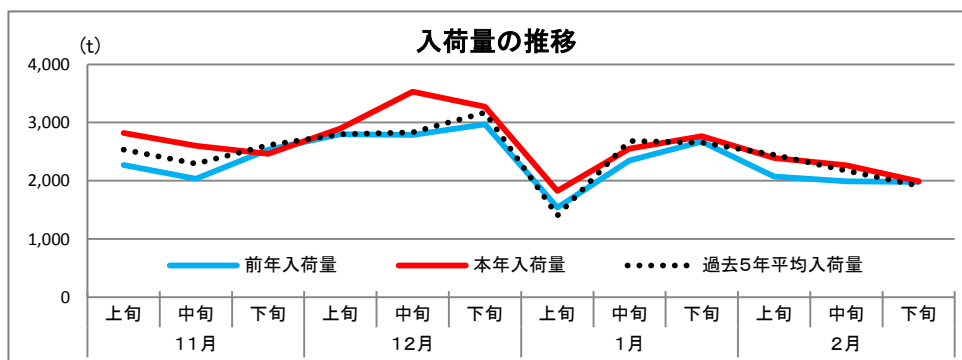
	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
冬にんじん (11～3月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、全体ではやや減少。千葉は微増 ● 生育状況は、千葉は8月下旬以降の低温・日照不足の影響で、生育にやや遅れが見られるが、概ね順調。愛知は台風18・19号の影響で、一部被害はあるが、全体的に生育は概ね順調。長崎は、播種は天候不順によって平年よりも1週間遅れたが、その後の好天により、生育は順調に推移。 ● 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微であり、概ね順調な出荷が見込まれ、期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、北海道産の残量も前年より多めの見込みで、千葉産も台風の影響もなく生育順調であるため入荷増の単価安が予想される。 ● 加工・業務用は、前年が国産の不作により高値であったことから、中国産が多く使用されたが、本年は価格も安いこともあり国産が主流となる見込み。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、北海道産において、天候に恵まれ順調に生育したことから、前年を上回った。 ● 12月は、主産地である千葉県産において、一部日照不足などによる生育の遅れがあったものの、概ね順調に生育したことから前年を上回った。 ● 1月は、千葉県産において生育が順調で潤沢な入荷となったことから前年を上回った。 ● 2月は、千葉県産において、降雪や降雨により収穫作業が滞ったことにより減少したものの、少なかった前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年をかなり上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:112%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、期間を通して潤沢な入荷となったことから、高値であった前年の半値程度となり前年を下回った。 ● 12月は、年末需要などにより緩やかな上げ基調で推移したものの、前月から引き続き低値で推移していることから、全月同様、前年を下回った。 ● 1月は、潤沢な入荷により減少傾向で推移し、依然、全月同様、安値で推移していることから前年を下回った。 ● 2月は、入荷量の減少により緩やかに上昇しているものの、依然、安値基調であることか、高値だった前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年を大幅に下回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:56%)

(参考1) 平成26年産冬にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	入荷量対比 (%)												期間計
	11月			12月			1月			2月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	124	128	97	104	127	110	119	109	103	115	114	101	112
過去5年平均比	111	113	94	104	125	103	130	95	104	98	105	104	
	115			113			109			110			

	卸売価格対比 (%)												期間計
	11月			12月			1月			2月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	57	54	49	57	63	61	57	54	56	62	51	54	56
過去5年平均比	66	67	70	78	82	83	71	65	64	69	63	64	
	52			61			56			55			
	67			82			67			65			

(参考2) 平成26年産冬にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

5. 平成26年産秋冬はくさいの需給・価格の実績

	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
<p>秋冬はくさい (10～3月)</p>	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、前年並み。愛知は生産者の高齢化及び品目転換によりやや減少。 ● 生育状況は、茨城は順調に定植作業が進み、その後の生育についても、順調に推移。愛知は、台風18・19号の影響は少なく、生育は順調に推移。兵庫は、台風18・19号の被害はなく、生育は順調に推移。 ● 出荷量は、台風18・19号の被害は軽微で概ね順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、長野産の残量が多く入荷増の単価安が予想されるが、一部産地での病害や台風の影響(塩害)が懸念され、出荷期の終盤の3月に少なくなり、前年並みの価格になる可能性があるともみている。 ● 加工・業務用は、外食でははくさいを使わない鍋メニューも増えている。一方で、忘年会・新年会シーズンでは、価格も安いことから需要は増える見込み。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月は、長野県産において、上旬は低温の影響で生育が停滞したが、中旬以降天候に恵まれ生育が回復し前年並みとなった。 ● 11月は、主産地の茨城県において、生育は概ね順調で本格的な出荷となるもほぼ横ばいで、順調な入荷が多かった前年を下回った。 ● 12月は、茨城県産において、上旬と下旬は低温の影響から入荷が伸びず前年を下回った。 ● 1月は、茨城県産において、天候などに恵まれ旬を迫うごとに入荷量は伸びたものの、多かった昨年を下回った。 ● 2月は、茨城県産において、生育も順調で、降雨が少なかった前年を上回ったものの、その他の産地が前年をそれ以上に下回る入荷量となったことから前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年かなり下回り、平年をわずかに下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:92%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 10月は、入荷量の増加に伴い、旬を迫うごとに価格を下げたことから前年を下回った。 ● 11月は、先月からの急落後も上昇することなく横ばいで推移したことから、前年を下回った。 ● 12月は、中旬以降、入荷量の減少や年末需要などから、上げ基調で推移しているものの、高かった前年を下回った。 ● 1月は、入荷量が前年と平年を下回っていることなどから、特に、中旬以降上げ基調となったものの、高かった前年を下回った。 ● 2月は、前月同様、高かった前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に下回った。 (10～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:61%)

(参考1) 平成26年産秋冬はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

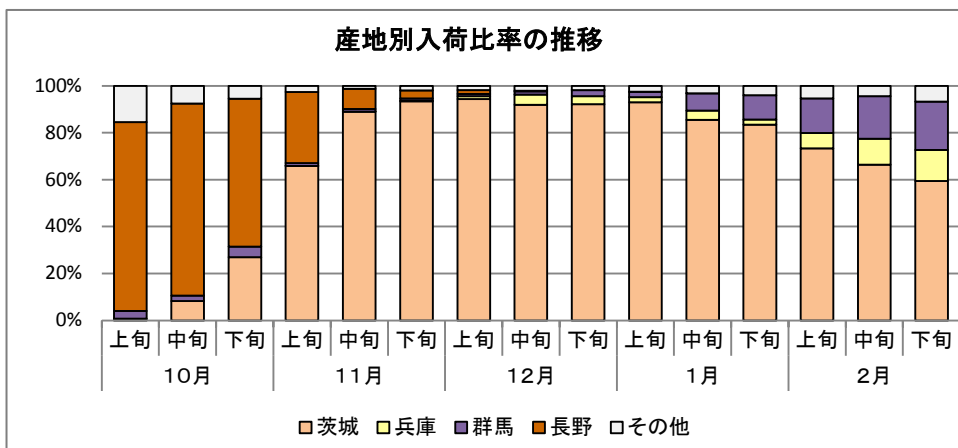
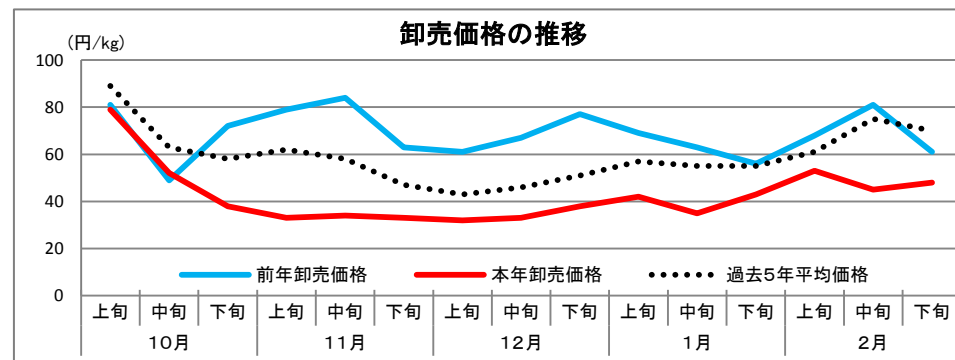
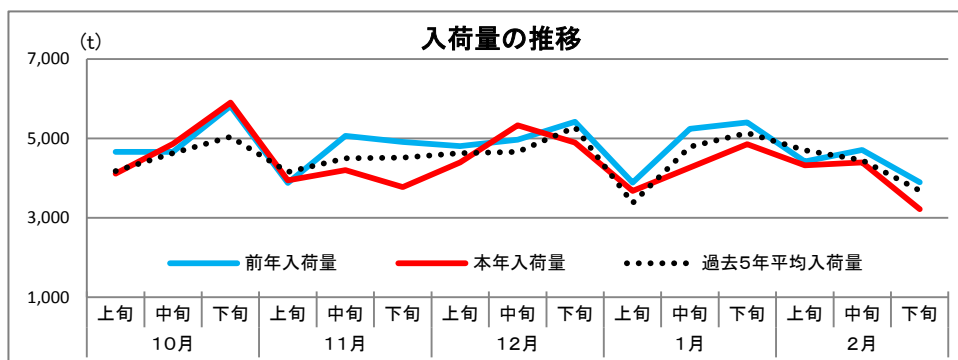
入荷量対比 (%)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	88	104	101	102	83	77	92	107	90	95	81	90	98	93	83	92
	98			86			96			88			92			
過去5年平均比	99	105	117	95	93	84	95	114	93	109	89	94	92	99	87	98
	107			91			100			96			93			

卸売価格対比 (%)

	10月			11月			12月			1月			2月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	98	106	53	42	40	52	52	49	49	61	56	77	78	56	79	61
	79			44			49			65			69			
過去5年平均比	89	83	66	53	59	70	74	72	75	74	64	78	87	60	69	72
	78			60			72			73			71			

(参考2) 平成26年産秋冬はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

6. 平成26年産の冬レタス需給・価格の実績

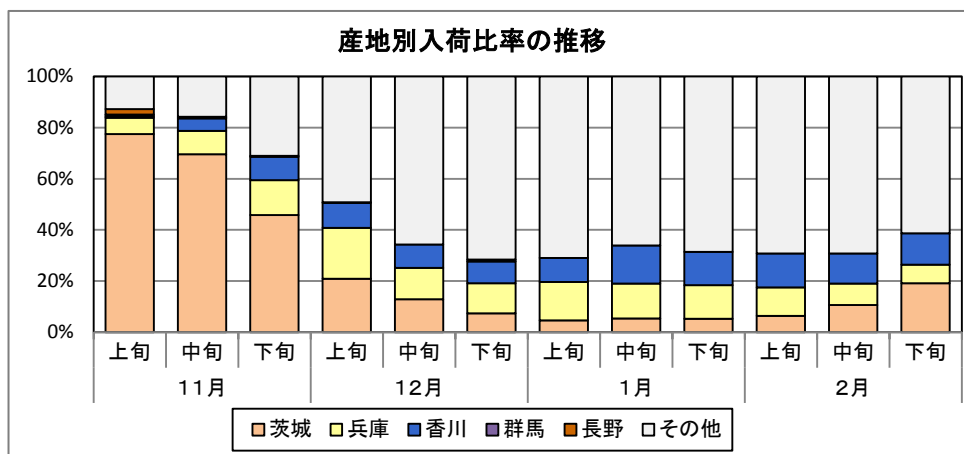
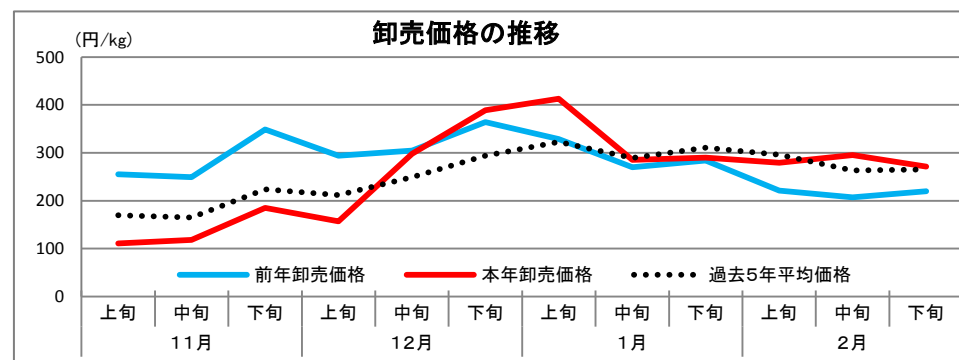
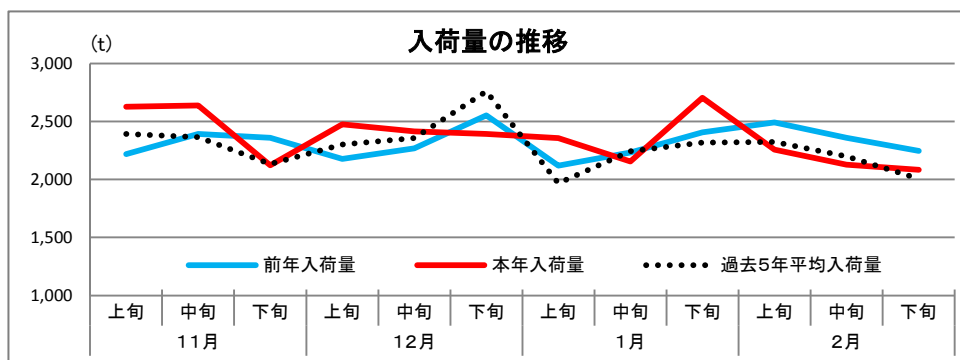
	前回の委員会(26.11.7)での見通し	実績(2月下旬時点)
<p>冬レタス (11～3月)</p>	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 作付面積は、概ね前年並み。 ● 生育状況は、茨城は、順調な生育で推移。静岡は、台風18・19号の被害は軽微で順調な生育で推移。兵庫は、台風18・19号の影響で圃場が冠水し、定植できなかった時期があるものの、生育に大きな影響はない。香川は、全体的な生育は順調に推移。 ● 出荷量は、12月と3月を除いて前年を上回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、関東産の出荷の切り上がりが早くなり、九州産の出荷が始まるまでの11月下旬には出荷の谷間が出来る可能性がある。また、夏の長雨の影響で定植遅れの時期があり、12/中・下の出荷に影響がでる可能性。 ● 加工・業務用は、本年も冬場の高騰に備えて、リスク管理対策として、台湾産の輸入を発注する業者もみられる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、茨城県産や兵庫県産において、天候に恵まれ順調で、台風等の影響で少なかったことから前年を上回った。 ● 12月は、静岡県産において、台風や低温の影響もなかったことから前年を上回ったが、下旬には兵庫県産において低温の影響もあり伸び悩み、平年を下回ったものの、低温等の影響で少なかったことから前年を上回った。 ● 1月は、静岡県産において、低温や日照不足などにより入荷量が伸びなかったが、その他の主産地において順調に生育したことから前年を上回った。 ● 2月は、香川県産は低温・多雨の影響、静岡県産が天候不良や病害の発生などから、前年を下回った。 ● 期間全体としては、前年をわずかに上回り、平年やや上回った。 (11～2月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:102%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 11月は、特に、中旬以降、入荷量が減少したことなどから、前年を下回った。 ● 12月は、年末需要などにより中旬以降、上げ基調であったものの、高かった昨年を下回った。 ● 1月は、上旬に年末の高値から平年並みまで急落し、それ以上下落することなく推移したことから、前年を上回った。 ● 2月は、入荷量の減少などにより、安値だった前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年をかなり下回ったが、平年並みとなった。 (11～2月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:91%)

(参考1) 平成26年産秋冬レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	入荷量対比 (%)												期間計
	11月			12月			1月			2月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	118	110	90	114	106	94	111	96	112	91	90	93	102
過去5年平均比	110	112	99	108	103	87	120	96	117	97	97	104	
	106			104			107			91			

	卸売価格対比 (%)												期間計
	11月			12月			1月			2月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	44	47	53	53	98	107	126	106	102	126	143	123	91
過去5年平均比	65	72	83	74	120	132	128	99	93	94	112	102	
	47			87			112			131			
	73			110			107			103			

(参考2) 平成26年産秋冬レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター